

一橋大学社会学部連続市民講座 2010

一橋大学社会学部は2010年4月から連続市民講座を再開いたします。

ローカル、ナショナル、グローバル～世界は小さくなったのか

一橋大学社会学部は、2010年度、全8回の連続市民講座を開講します。1年間のインターバルの後に再開される今回は、ローカル、グローバル、ナショナル、それぞれの用語が現代においてどのような意味を持って現れてきているのかについて、さまざまな視点から迫っていきます。これまでに開催しました3期にわたる連続市民講座と同様、一橋大学社会学部の学際的で総合的な特長を生かす意欲的な取り組みとなります。6回以上出席の受講者には修了証も発行いたします。多くの市民、そして高校生のご参加をお待ちしております。

■ 2010年度 講座一覧（予定）

日 程	担 当 者	タ イ ト ル
4月17日(土)	伊 豫 谷 登 士 翁	ローカル、ナショナル、グローバル～グローバル空間のローカルな編成
5月15日(土)	糟 谷 憲 一	世界・アジアのなかの日朝関係～19世紀後半から現在まで
6月19日(土)	マイク・モラスキー	日本におけるジャズ受容～異文化の摂取・消化・再生を考える
7月17日(土)	小 井 土 彰 宏	地域の中でせめぎ合うグローバルとナショナル～北米大陸での経験
10月16日(土)	浅 見 靖 仁	タイの外国人労働者受け入れ政策～医療保険と子供の教育問題を中心に
11月13日(土)	春 日 直 樹	フィジー～公立老人ホームで考える
12月18日(土)	岡 崎 彰	音響・国境・望郷～ローカルな音楽がグローバル化するとき
1月22日(土)	伊 藤 る り	〈庇護の地〉フランスの変容と苦悩～英仏海峡 トネルの町・カレーの事例から

会 場 / 時 間

兼松講堂（一橋大学国立西キャンパス）

時間／ 13：30～15：00

参 加 方 法

参加は無料。どなたでも入場できます。当日、直接会場までお越しください。

問 い 合 せ 先

■ 一橋大学社会学部事務局

TEL：042-580-8212

E-mail：jimusoc@ad.hit-u.ac.jp

■ 一橋大学総務企画課

TEL：042-580-8010

E-mail：soumus1@ad.hit-u.ac.jp



東京都国立市中2-1



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

後援／国立市・国立市教育委員会・立川市教育委員会・小平市教育委員会
府中市教育委員会・武蔵村山市教育委員会・国分寺市教育委員会
協力／一橋新聞・一橋消費生活協同組合

グローバル。人や文化、お金や技術、制度などが国や地域を越えて広がり、交錯していく時代になりました。ナショナル。一昔前は国家がもっとも大きな社会単位であり、繁栄も没落も国家が単位でした。2009年のCOP15が示したように、国際的協議の場で国家的利益が追求されるのは、今も同じです。ローカル。場とか地元という意味です。世界の非西洋圏では、近代化や西洋化を待つ小単位として否定されることがありますが、生活の場として根源的な力をもつことも否定できません。

2010年度一橋大学社会学部連続市民講座では、これら3つのキーワードがいかに関結びついて現代世界が形作られているかを考えます。社会学部が誇る教員陣の8回の講義は、現代世界の各地のありさま、世界のなかの日本、そして私たちの日々の暮らしがどのように関係しているのかを、明らかにすることでしょう。

落合 一泰 一橋大学社会学部長



■ 講座担当教員

伊豫谷 登士翁 (いよたに・としお) 教授

専門分野は、移動研究、グローバリゼーション研究。人の移動という観点から現代世界の動きを捉えようとしている。著書に『グローバリゼーションとは何か』(平凡社新書)、『グローバリゼーションと移民』(有信堂)。現在は、人の移動がどのように空間を、そして「日本」という場所を再構成してきたのか、をテーマとしている。担当科目は「移動研究」、「グローバル空間の編成」など。



糟谷 憲一 (かすや・けんいち) 教授

専門分野は朝鮮史。朝鮮王朝時代および植民地期朝鮮の歴史を教えるとともに、現在は朝鮮王朝時代の政治権力の構造を分析する研究を続けている。朝鮮王朝の対外関係、日本の朝鮮植民地支配について研究したこともある。担当科目は「アジア社会史総論」、「アジア社会史I(前近代)」、「アジア社会史II(近現代)」など。



マイク・モラスキー教授

専門分野は日本文化史。戦後期を中心に、日本の文学と歴史、映画と音楽について研究し、近年は日本独自のジャズ受容の歴史に焦点を当ててきた。担当授業では文化の受容と再生、歴史認識の形成、そしてグローバル化におけるローカルの「場」の意味などに重点をおく。担当科目は「民族・文化共生論」、「地球社会と文明の対話」など。



小井土 彰宏 (こいど・あきひろ) 教授

専門分野は国際社会学。国際移民、企業のグローバルな展開と地域社会への影響等、国境を超える多様な社会的な過程の分析を行っている。特に近年は、アメリカ合衆国の移民政策と移民の社会運動の分析や移民政策の国際比較研究に取り組んできている。担当科目は「国際社会学II」、「国際社会学の課題」など。



浅見 靖仁 (あさみ・やすひと) 教授

専門分野は比較政治学。東南アジア諸国の開発と民主化、社会保障制度について研究するほか、NGOと連携してタイで働くビルマ人出稼ぎ労働者とその子供たちについての調査も行っている。担当科目は「社会開発論」、「国際開発論」、「地域研究(アジア・アフリカ)」など。



春日 直樹 (かすが・なおき) 教授

専門は人類学。オセアニアのフィジーなどでおこなうフィールドワークにもとづいて、歴史・哲学・思想・科学技術論の諸議論を再検討している。担当科目は「人類学」、「人類学方法論」、「社会人類学」など。



岡崎 彰 (おかざき・あきら) 教授

専門分野は社会人類学。アフリカとヨーロッパで「人間」概念、「他者」概念、夢の歴史、笑い現象などについて調査・研究してきた。今はアフリカの音楽・ダンス、そしてスーダンにおける紛争について研究中。担当科目は「映像・音・声の人類学」、「人類学と夢研究」、「文明と周辺社会」など。



伊藤 るり (いとう・るり) 教授

専門分野は国際社会学。グローバル化と国民国家の変容について、人の国際移動の問題をつづいて研究している。近年では、アジア、そしてヨーロッパにおける移住家事・介護労働者の就労状況について現地調査を行ってきた。担当科目は「国際社会学I」、「社会研究入門ゼミ」など。

